

2学期始業式

令和5年9月1日

今年の第2ステージが開幕です。夏の様々な思い出はアルバムにしまい、若い君たちは、次なる目標に向けて日々努力し邁進してください。

残暑が厳しいため各教室に配信する形で始業式を実施しました。校長式辞に続き、生徒指導部長の先生は次のような話をした上で、いい2学期にしようと力強く呼びかけました。

- ・2学期も学習、部活動、学校行事にしっかり取り組んでほしい。10月予定の文化祭が良いものになるよう各クラスまとめて取り組んでほしい。
- ・生活リズムを早く取り戻し、熱中症などにも注意しながら、自分の目標に向かい、また新たな目標も作って努力してほしい。
- ・引き続き人に迷惑をかける行為、違法行為、他人への嫌がらせがないよう、自分のあり方を正してほしい。
- ・何か困ったことがあればいつでも相談してほしい。

始業式の後には、生徒総会を行いました。生徒会新執行部が、決算報告、予算案等について説明し、了承を得ました。そのあと、生徒会長から、文化祭について、そして夏に行われた「スマホサミット」についての話がありました。



生徒会からの説明



表彰式に臨んだ生徒たち

2学期始業式 式辞

皆さんおはようございます。いい夏が過ごせましたか？
夏休みの間に、皆さんの様々な活躍を直接見たり、聞かせてもらったりしました。暑い中を一生懸命取り組みました。感動もありました。涙もありました。この後表彰もありますが、皆さんのどの挑戦においても、流した汗と涙の尊さに違いはありません。全ての努力に拍手を送りたいと思います。

さて、1学期終業式で東京大学入学式祝辞の話を紹介しましたが、今日は、芦屋市の市長さんのことを少しか話します。全国最年少市長、26歳。高島峻輔（りょうすけ）さん。知っていますか、歴代市長で最年少だということです。

彼は、兵庫県内のある私立高校出身ですが、高校時代、彼はラグビー部員でした。そして、生徒

会長も務めていた。勉強も部活動もしっかりとやっていた。そのうえで、時間を見つけては、ボランティア活動も行っていたそうです。被災地の支援等をされていたそうです。人のために役立つという思いを高校時代から持っていたのですね。

そして、当選後すぐのテレビ番組で、こう言っています。

「本当にもう身の引き締まる思いです。私の場合は何か実績があってというよりも、ただただ期待を寄せていただいた。その期待に応えられるように精いっぱい努力したいと思います。(史上最年少だということは)知ってはいましたけれど、それはあまり関係ないというか、それよりも“何をやるか”が一番大事なので、もうここからは年齢に甘えることなくおごることもなく仕事したいなと思っています。」

甘えることもなくおごることもなくなんて、26歳が言えるのかと…、自分の26歳のころを思い出すと、教員になって3年目くらいでしたが失敗ばかりしていましたので恥ずかしくなりますが、こういう「尊敬するに値する人」から学ぶことは大事だと思います。

ところで、皆さんは、尊敬している人はいますか？

オーディオ機器メーカーのソニーの創業者、井深大(いぶか まさる)さんは、こんなことを言っています。

「立派な人間になるための一つの条件は、自分が心から尊敬できる人を持つこと」

ですので、尊敬している人がいる人はよいことだし、思い浮かばない人は、そういう人が見つかるといいですね。

私は若いころに先輩の先生から言われたことがあります。

「同じ学校に尊敬できる先輩教師がいる奴は幸せや。3人もいればすごく幸せやぞ」

また、私は、この学校に尊敬できる先輩教師が3人どころかもっといますよ。先輩でなくても、私より若い先生でも、「この人のここはすばらしいなあ」と思える人がいますよ。

人は、どうやって成長するのか？ それは、人の良い点、優れた姿勢、立派な考え方に触れ、それに刺激を受けたり、共感したり、憧れたりしながら、それが無意識であっても、影響を受けながら、自分に取り入れ、自分を作っていくんですよ。いくつになっても、いつの時代も。人から学んだことを生かし受け継いでいくということが人間の歴史を作ってきたのだと思います。

そういえば、少し前の話ですが、私は、本校のある先生からある話を聞きました。

「本校の生徒は日本一だ。素直で、よしやろうと決めたら真摯に取り組む。そして、人のことをいつも思いやる。こんな生徒はほかにいない。」

私は、この先生の言葉によってこの学校の良さ、生徒の良さを知りました。

こういうとらえ方、考え方ができる人は素晴らしいと思い、その先生のことも尊敬しています。

この先生からも感じたことですが、「尊敬する心」とは、「人の良い面を見ようとする心」と通じるのではないかと思います。100%良い面だけしか持たない人はいません。人には長所も短所もあります。というよりも、1つの性格が、よく働けば長所になるし、それがあつた人から見れば気に食わない短所に見えることもあります。

人を尊敬できる、人から学べる人というのは、人の良い面が見られる人だと思います。周りに5人の人がいて、それぞれの人の良い面を見られる人は、その5人から学ぶことができる人です。

人の良い面を認め合つて、学び合えるような人間関係を作っていけば、もっといい学校になります。もっと成長できます。そういう学校にしていきましょう。みんなで。

もう一つ付け加えると、その日常での出会いを補うものが本です。あるいはメディアです。これらによって、日常とは違う人に出会うことができます。スーパースターとも出会うことができます。例えば大リーグ大谷翔平選手についての本を読めば、彼の生き方、考え方を学ぶことができます。

また、過去の人物に出会うこともできます。私などは、高校生の頃、坂本龍馬をモデルにした司馬遼太郎さんの小説『竜馬がゆく』を何度も読んで、登場人物の生きざまに感銘を受けました。

これから、2学期、読書の秋のシーズンも迎えるので、本も読んでほしい。本を通して、様々な考え方に会ってほしい。同時に、生身の人間関係を大事にしてほしいと思います。

最後に

これからの季節は実りの秋です。努力して挑戦し、成果を出すべき時です。

3年生は、入試、入社試験に挑戦する人が多くいます。最後の最後まで努力してください。そして、自分の願う進路を手にしてください。そして、進路が決まってからも高みを目指し努力を続けてください。卒業まで走り抜けて。背中を見せることが3年生の務め、後輩にしてやれる最高の贈り物だと思います。

そして、1、2年生は様々なことに挑戦し大きく成長してほしい。失敗を恐れず挑戦してほしい。挑戦の結果、失敗があつてもいい。

夏の甲子園準優勝の仙台育英高校の監督さんは言いました。

「人生は敗者復活」「負けたとしても失うものより得られることの方が多い」と。

そのとおりだと思います。

学習、部活動、学校行事、その他の活動に、全力で挑戦し、大きく成長してください。かつての高島少年のように。